

来場者から寄せられた食品寄贈

FC岐阜とオフィシャルパートナーのバローホールディングスが今年5月に始めた取り組みの一環。ホーム戦でブースを設置して募り、県社会福祉協議会を通じて子ども食堂などに届けている。この日は、レトルト食品や袋麺など34品の食品を贈った。

両選手は、サインをしたり、質問に答えたりして集まった小中学生約

サッカーJ3のFC岐阜の田中順也選手(36)と久保田和音選手(26)が22日、大垣市墨俣町墨俣の子ども向け施設「みのむしハウスすのまた」を訪れ、家庭で消費し切れない食品を必要とする人に届けるフードドライブ活動として、ホーム戦で集めた食品を寄贈した。(野田祐治)

FC岐阜選手 笑顔もお届け

大垣市の児童施設 小中学生と交流



30人と交流。安八町の名森小学校6年の西松夕凜さん(11)は「有名な人に会えて楽しかった」と笑顔を見せた。

施設を運営するNPO法人かがやけ安八(同町南今ヶ渚)の辻直人理事長(58)は「選手との交流はなかなか、子どもたちの思い出になる。頂いた食品は大切に子どもたちに配りたい」と感謝した。

辻直人理事長らに集まった食品を手渡す久保田和音選手(左端)と田中順也選手(左から2人目)＝大垣市墨俣町墨俣、みのむしハウスすのまた